

厚生労働科学研究費補助金  
(障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(精神障害分野)))  
(総括・分担)研究報告書  
群馬県精神科入院患者のロコモティブシンドロームおよび身体機能の実態調査  
研究分担者 筑田 博隆 群馬大学 教授

研究要旨

本研究の目的は、精神科入院患者におけるロコモティブシンドローム(ロコモ)および身体機能の実態を明らかにすることである。

A. 研究目的

本研究の目的は、精神科入院患者のロコモティブシンドローム(ロコモ)および身体機能の実態を明らかにすることである。

B. 研究方法

サンピエール病院精神科入院患者および外来通院患者を対象としてロコモのスクリーニングツールであるロコモ25を用いてロコモの評価を行った。ロコモ25による評価は、患者自身および作業療法士により独立して行った。また、1年以上の長期入院中の統合失調症患者を対象として握力と片脚起立時間の測定を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヒトを被験者として相手方の同意と協力のもとに実施する研究であるため、被験者の人権ならびに安全性の確保のために特段の配慮を行った。研究プロトコルは各施設の倫理委員会に申請し承諾を得た。本研究が人権保護実験の事前に書面にて実験内容および注意事項を通知し、被験者の自由意思による同意書への署名・捺印をもって同意を得ることとしている。被験者には実験中いかなるときも自らの意思によって実験を中止できることを周知徹底している。実験結果の公表に際しては個人の特定が行えないよう配慮するとともに、データ分析時にも個人名が特定できないよう個人情報管理している。

C. 研究結果

ロコモ25を用いた患者自身によるロコモの評価では、入院および外来の患者125名中58名(46.4%)がロコモと判定された。入院患者と外来患者の比較では、入院患者に有意にロコモが多かった。作業療法士による評価では、入院および外来の患者134名中69名(51.4%)がロコモと判定された。また、長期入院中の統合失調症患者を対象とした身体機能の評価において、握力測定についてはAsian Working Group for Sarcopeniaの基準値未満であったのは、男性25名中12名(46.2%)、女性22名中14名(63.6%)であり、片脚起立時間が運動器不安定症

のカットオフ値である15秒未満であったのは男性24名中16名(66.7%)、女性20名中12名(60.0%)であった。

D. 考察

精神科病院での入院患者、外来患者のロコモおよび身体機能の実態調査を行ったところ、外来患者に比べて入院患者で有意にロコモが多いことが判明した。また、患者自身の評価でロコモと判定されない場合であっても作業療法士による評価ではロコモと判定されることがあり、精神病患者は自分の身体能力を過大評価している可能性が示唆された。また、長期入院中の統合失調症患者では握力や片脚起立時間が基準値未満である患者の割合が40%台から60%台であった。

精神科への入院はロコモおよび身体機能に影響を及ぼし転倒や骨折のリスクが上昇する可能性が考えられた。

E. 結論

精神科入院患者は、外来患者に比べてロコモと判定される割合が有意に高かった。長期入院中の統合失調症患者では、握力と片脚起立時間が基準値未満である割合が40%から60%台であった。

G. 研究発表

1. 論文発表  
原著論文 11件
2. 学会発表  
口頭発表 10件

H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む.)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし